

# ニュージーランドの家族の役割

橋本 紫野

私は約10年前に学生としてこのプログラムに参加した時と今回リーダーとしてこのプログラムに参加した際に、ある事に気づきました。それは・・・「家庭での役割をさりげなく分担していること」です。

学生の時、初めてステイ先で食事をするとき「NZの料理ってどんなのだろう？」と楽しみにしてキッチンを見に行きました。当然 Mother が料理をしていると思ったら、なんと Father でした。2人とも同じように仕事から帰ってきて、当然のように Father がキッチンに立ち、その時 Mother はそばでワインを飲んでいました。日本では考えられない状況に驚いたのを覚えています。

後にニュージーランドの男性は、積極的に家事に参加し、『KIWI HUSBAND』という言葉があるのを知りました。今回食事に招いてくれた時も、やはり料理をしてくれたのは Father でした。



そして今回の家でも Hostess が料理をしていると Host が「何か手伝おうか？」と問いかけていました。また、朝食にはサンドイッチを作ったりコーヒーを淹れたりと率先して働いており、食後の食器の片づけも自然な流れで一緒にしていました。誰か1人が家事をするのではなく、会話も楽しみながら協力するので負担を感じる事が少ないのだと思いました。

今回何より驚いたのは、家まで手作りしていたことです。家族で手

分けしてブロックを積んだり、床を磨いたりして長期間かけて仕上げたそうです。日本びいきの彼は建具も日本の障子を参考にして、光を通す和紙を使ったものを製作していました。かつて家族で住んでいた日本の雰囲気を残したかったのでしょう。



家族で過ごす時間を大切にするため、仕事も分担してお互いを思いやっているのが印象的でした。